

「ベストクロップ・キセラ」 導入の経過



ベストクロップ・キセラ促成栽培、一番花の開花のころ

JAあまくさ 指導販売部

園芸係長 **志垣 嘉英**

1 管内の概要

当地域は熊本県の西南に位置し、大矢野島、上島、下島と大小130の島からなる。

島の中央部には、300～500mの山系が連なり、内陸地に耕地が開け、海岸に面した平坦地は湿地が多い。また、河川は延長が短く、保水力が乏しいため、水質源確保のためにダム等の建設が進められています。

気象的には、温暖な気候に恵まれ、年平均気温16.8℃、降雨量1,800～2,000mmであるが、地形は変化に富み、地域による気象の差が大きく、一部には無霜地帯もある。また、台風や干ばつなどの災害を受けやすく、特に突風によるビニールハウスなどの被害が多い。

2 インゲンの導入の経過

JAあまくさ栖本統括支所に初めてインゲンが導入されたのは約13年前の昭和55年ころからです。管内農家の耕作面積が狭く、以前より小面積で

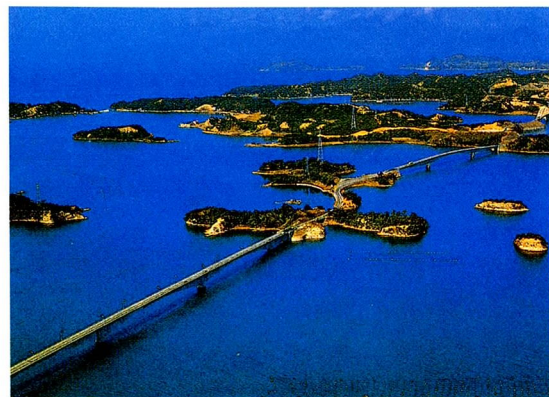


写真1 天草全体の風景

収益性の高い品目はないかと模索中でした。もともとエンドウなどの豆類の産地でもあり、インゲンが一番収益性が高く、将来性があり、導入となりました。

当時の品種はアーロンで、莢色も濃く、収量性も高く、天草地域に最も向く品種でした。しかし、曲がり莢が非常に多いという欠点もありました。

天草では導入当初より、他産地には絶対に負けない信頼と市場価格を取りたいということで、インゲン部会を中心に、選果選別には特に力を入れ、S規格(莢長10～12cm)中心に収穫し、1ケース(2kg)詰めるのに約1時間を要し、最盛期には夜中まで箱詰め作業にかかっていました。インゲンは他の作物と比べると生産コスト及び出荷経費が低く、収益性が高いということで一般の生産者に広がり、最初のうちは、若い生産者も取り組みました。

一方、消費地では、選果選別と品質が良いということで、市場の評価も上がり、2～3年もすると、最高の評価を得ることができました。

このようにして、栽培面積も徐々に増加し、昭和63年には栽培面積8ha、生産者も200名と増加していきました。

作型は春と秋の年2作型で栽培しています。インゲンは管理作業や収穫時に中腰が多く、足腰に多くの負担をかけるようになってきたため、JAでは、普及所の生活指導とともに、楽々ベンチなどを使い、負担減の方策をとってきました。

以前から、生産者よりアーロンよりも莢の曲がりの少ない品種の要望が高まり、試験場、JAが中心となり、試作を繰り返し行なった結果、ライトグリーンが導入され、確かに曲がりは少なくなり、

箱詰め作業の労力は軽減されたものの、収量が少なく、莢色が薄いという欠点もみられました。しかし、市場においての評価は変わらず、品種交替はスムーズに進みました。

このようにして、現在まで進んできましたが、1戸当たりの栽培面積はそのままで推移したため、全収量が以前に比べて減少しています。

インゲンは収穫、箱詰め作業に非常に多くの時間を必要とするために、栽培面積の拡大もできないままに現在に至っています。

平成6年では、栽培農家の平均年齢は60歳を超え、高齢化とともに栽培面積もだんだん減少し、生産者数で120人、5haとなっています。残った生産者は生産の努力の中で、農家経営に何か物足りなさを感じていると思われます。

このように、徐々に減少する生産者を引き止めるために、新品種の試作なども続けてきましたが、生産者を引き付ける品種には巡り合うことができませんでした。このような時期にベストクロープ「キセラ」の試作を行なったところ、他のインゲンとはタイプが全然違い、これならば生産者を引き止められると確信しました。

3 ベストクロープ「キセラ」の試作結果

平成4年の抑制栽培より試作し、以下の特性が分かりました。

1) 長所

- ① 莢色が濃く、艶があり、品質が良い。
- ② 収量が多い。
- ③ 湯であがりの色が良く、おいしい。



写真2 ベストクロープ・キセラ開花のころ
花数が非常に多い



写真3 ベストクロープ・キセラ。葉が小さく、摘葉作業が少なくて作業が楽である（1番花収穫中）

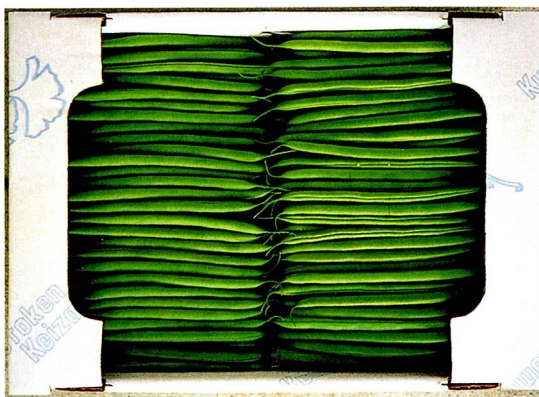


写真4 ベストクロープ・キセラ M規格品（14～16cm）

- ④ 大莢収穫をするために、収穫作業に余裕ができた。
- ⑤ 箱詰め作業が早く、荷姿がきれい。
- ⑥ 収穫が少し遅れても、莢の凹凸がなく、品質の低下が少ない。
- ⑦ 葉が小さいため、摘葉が少なくてすむ。
- ⑧ 栽培面積の拡大が可能。
- ⑨ 5～6月の気温が上がったところの収穫時の莢の萎れが少ない（店頭での棚持ちが良い）。

2) 欠点

- ① 促成栽培では莢が長くなる（17cmくらい）。
- ② 莢が細いために、曲がりが目立つ。
- ③ 乾燥に弱く、灌水が多く必要。

4 ベストクロープ「キセラ」の導入

平成5年の促成栽培より、ライトグリーンとベストクロープ「キセラ」の2品種で取り組み、品種選択は各品種の特性を理解してもらい、生産者

に任せるといった形の導入でした。

1) 栽培の概要

管内の栽培体系は図1のように、促成及び抑制栽培の2作型で行なっています。

耕種概要については、以前と同様に行なってい

(1) 促成

月	12			1			2			3			4			5			6			7			8	
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
ハウス栽培	作型			○			○																			
	主要作業	本田準備 (耕起・畦立・マルチ)	播種	定植	温度管理に注意	間引き	誘引	追肥開始 摘葉開始 病害虫防除	温度管理に注意	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除
トンネル栽培	作型						○																			
	主要作業					本田準備 (耕起・畦立・マルチ)	播種	定植	温度管理に注意	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	病害虫防除

(2) 抑制

月	8		9			10			11			12			
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作物	露地														
	施設														
主要作業	本田準備	播種	寒冷紗被覆	施設本田準備	ビニール張り	播種	防除(アブラムシ)	露地収穫開始	トンネル被覆	トンネル被覆	トンネル被覆	トンネル被覆	追肥	追肥	追肥

図1 インゲン栽培・作型



★注意点

- ①播種
2粒播種1本仕立てにする。株間30~35cm。
- ②種子消毒
発芽不良、立ち枯れ病による欠株防止に必ず行う。
(ベンレート、オーソサイド、チウラムなどの殺菌剤を使用)。
- ③間引き
地際から切り取る(抜き取ると隣の株を傷めます)。
- ④ヒモ、ネット張り
枝に多くの花や葉がつき、枝が広がりがやすいため、倒伏防止のために早い時期から行う。
- ⑤追肥
1回目は蕾が小さく見えてくるころ。2回目は最初の収穫の前か後。以後7~10日間隔で追肥を行う。液肥であれば、灌水を兼ねて行うのもよい。
- ⑥灌水
マルチ栽培では根が浅く広がり、地中深くまで広がらない。そのため、わずかな乾燥でも品質、収量の低下が起こる。灌水は少量でも回数を多く行う。
- ⑦収穫
1番花は開花後10~14日前後から収穫が始まる。
2番花は1番花の収穫から連続して始まり、収穫の間隔は良品出荷のためには1~2日間隔がよい。

図2 「ベストクロープ・キセラ」の栽培上の注意点と管理

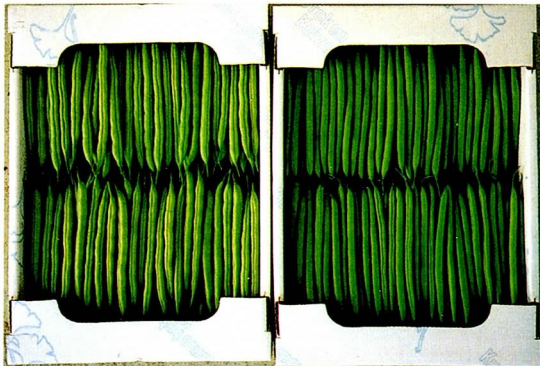


写真5 左・ライトグリーン L規格品
右・ベストクロープ・キセラ M規格品

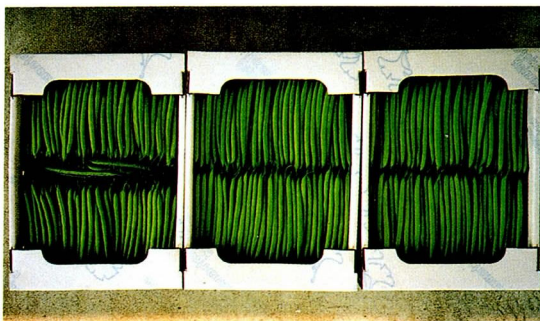


写真6 ベストクロープ・キセラは箱詰め作業が早く、
荷姿が非常にきれいである
左・S規格品 (12~14cm), 中・右・M規格品 (14~16cm)

ますが、栽培方法では図2のベストクロープ「キセラ」の栽培暦に準じて指導しています。

特に注意点として、

- 株が倒れやすいので、支柱をしっかりと立てる。
- 促成栽培では換気に注意する（むし込まない、つる化しやすい）。
- 草勢が弱いわりには花数が多く付くので、灌水、追肥の時期を早めに行う。
- 以前のように若莢収穫をしない。

2) 収穫

促成栽培

収穫時期が好条件になるため、収穫が遅れると莢が長くなるので、莢長14~15cmのM規格を中心に収穫を徹底する。

抑制栽培

収穫時期が低温期になり、一番花だけの収穫となるため、14~15cmのM規格だけを中心に収穫を徹底し、収量を上げる。



写真7 出荷ダンボールにキセラのシールをはって出荷している

3) 出荷

写真6のように、莢長12~14cmまでをS、15~16cmまでをM規格で出荷しています。

5 今後の課題

- ①従来の品種の栽培管理が定着しているために、どうしても灌水や追肥の時期が遅れる農家が多く、曲がり莢の発生や収量が少なかったりする場合が多い。
- ②露地抑制栽培の作型で灌水施設のない圃場が多く、乾燥による曲がり莢の発生が多くなる。
- ③曲がり莢の発生が多い圃場では、箱詰め作業に今まで以上に時間がかかる。

終わりに

ベストクロープ「キセラ」は従来のインゲンと違い、大莢で収穫するために、収穫、箱詰め作業が楽になり、今までのインゲン栽培のイメージを変え、栽培面積の拡大が可能な品種と思われます。今後とも銘柄産地を維持するためには、生産者の高齢化による栽培面積の減少をどうにかして食い止め、さらに、出荷量を拡大しなければなりません。その目標を達成するために、また、生産者の意識改革に努め、さらに、栽培指導を徹底し、生産量及び品質においても超一流のインゲン産地の確立のために努力したいと思います。